

総額71億円余りの26年度東川町予算が可決、成立

「写真文化首都」宣言、開拓120年、大雪山国立公園80周年記念事業も

東川町議会第1回定例会が3月6日から会期7日間で開かれ、総額約71億千580万円(前年度当初比13億2千159万5千円、22.81%増)の26年度予算が、いずれも全会一致で可決成立しました。(3ページから13ページ、うち予算概要は14、15ページ)

開拓120年、大雪山国立公園80周年、写真の町宣言30年、写真甲子園20周年など、東川町は今年、各種の節目を迎え、各種記念行事が目白押しです。新たに「写真文化首都宣言」もを行い、町は新たなまちづくりのスタートに向けて積極事業予算を組みました。

一般会計は、前年度当初比13億6千500万円(26%)増の66億100万円、特別会計(公共下水道事業、国保町立診療所)は、前年度までの国民健康保険、簡易水道事業の両特別会計がなくなつて同4千340万5千円(7.78%)減の5億千480万円となりました。

平成26年度行政執行方針

平成26年度行政を執行するに当たり基本的な考え方を申し上げ、議会並びに住民の皆

さまのご理解をお願い申し上げます。



第1 はじめに 開拓120年

今年(明治27(1894)年)に本町の開拓測量が始まり、翌年の明治28(1895)年に四国や本州からの団体入植が始まって以来120年という人に例えると大還暦という意味ある年を迎えております。先人は過去120年の歴史の中で、節目となる年に何か未来に夢と希望を持ち、未来に向かって発想と行動力でさまざまなものに取り組んできて

います。大雪山国立公園80周年、J Aひがしかわ女性部60周年、シニアクラブ50周年、蔬菜(そさい)園芸研究会40周年、写真の町宣言30年、写真甲子園20周年などであります。

厳しい北国の環境の中で、米づくりを中心とした各種産業文化の持続と発展、北国に調和した衣食住文化の向上、羽衣太鼓や氷彫刻文化の発祥と伝承、越中踊りの継承など、生産と生活文化の発展への取り組みが行われてきています。また北海道最高峰・旭岳を中心とした大雪山の豊かな自然を生かした観光振興、雪解け水を農業に、地下水は生活用水として生かし、自然と調和した暮らしを持続してきています。

開拓以来、今日まで東川町の発展持続にご尽力いただいた先人各位に深く敬意を表し、改めて未来へ向かって輝く町

づくりを確実に進めます。

第2 定住人口8千人目標達成に向かって

プライムタウン計画において定住人口目標を8千人と定めております。目標達成に向かってハードとソフトの両面から町の価値を高める施策の着実な実行と住民の東川町での暮らしやすさを口コミなどで伝えていただいた複合効果により、今年、目標達成に至るものと考えています。これからは定住人口8千人規模を着実に維持できる活力のある町づくりを持続することが課題となつてきます。特に次のような高齢化への対策が必要となつていきます。

- ア. 介護予防活動(外出支援)
 - イ. 働く場(社会へ奉仕の場)
 - エ. 宅地と住宅流動化の支援
 - ウ. 後継者のいない高齢者の宅地と住宅の利活用と継承
- ### 第3 自立へのステップ ジャンプ4「原始人に学ぶ行動をまちづくり」

日本を代表し、世界で活躍する建築家安藤忠雄氏は「原始人の3つの力」として「発想力、持続力、直観力」を上げています。特に「若者よ、



タイ・ボンテープ副首相が来町し、台湾、中国から来日して日本語研修を受けている授業を視察(昨年8月22日、旭川福祉専門学校)

原始人に戻れ」と説いていますが、常に発想に心がけ、コツコツと努力し持続する力を養い、さまざまな出会いから感動と刺激により直観力を磨き、住民福祉の向上を進めます。

1. 写真文化首都宣言

国は「多極分散型国土形成促進法」や「国土強靱(きょうじん)化基本法」を定め、一極集中型国土形成から地方多極分散型の国土形成を目指しています。先人が残された「写真の町」120年の足跡を踏まえ、「おいしい水、うまい空気、豊かな大地」と言う素晴らしい環境の中、次の還暦に向かって都市と農村が調和した活力と特徴のある町づくりを目標に「写真文化首都」を宣言したいと考えてい